

寅さん歩 その 13

お江戸の閻魔大王-5

(世田谷～新高円寺)



平野 武宏

お江戸の閻魔大王には「寅さん歩 その 11 江戸・東京の祭-28 (江戸らしい祭-12) 閻魔まつりで7ヶ所訪問しましたが、お江戸の閻魔大王はなんと44ヶ所もあるとのこと。2012年寅次郎がお江戸に移り住み、入会した東京都ウォーキング協会(以降TWA)では8回に分け、2年間かけて歩いて巡る予定と知り、「寅さん歩」の新たなテーマとして取り組みます。

平成28年(2016年)開催の4回では累計24ヶ所の閻魔大王にお会いしました(内2ヶ所は奪衣婆のみ)

平成29年(2017年)開催の第一回は1月22日で3ヶ所の閻魔大王にお会いしました。(今回までの累計27ヶ所)本来、閻魔大王にはご開帳の時(1月・7月)にしか、ご尊顔を拝見することが出来ませんが、当日はTWAが寺院に特別にお願いして、お会いすることが出来ます。説明内容の一部は当日の配布資料も参照しています。通して歩くと約14kmです。最寄り駅は代表例です。

[大悲山 円光院 明王寺]

世田谷区世田谷 4-7-12 最寄駅 東急世田谷線 世田谷駅



東急世田谷線 世田谷駅の裏にある真言宗豊山派のお寺で天正年間(1573年～1591年)建立の古刹。世田谷城主 吉良家の祈願寺と伝わるとのこと。写真上左、正面の本堂に向かって左側に閻魔堂(写真上右)があります。扉の小さな窓からの網越しなので、うまく撮れませんが、閻魔大王の脇と前に従者が並んでいます。前の二人は閻魔大王の書記官で司命(判決文を読み上げる)と司録(記録する)のようです。よく見ると、前右端に奪衣婆もいます。



[青林山 東覚院 薬師寺]

世田谷区千歳台 4-11-11

最寄駅 小田急線 千歳船橋駅からバス利用

バス停千歳台4丁目から寺の白壁が見えます。真言宗智山派の古刹。僧月空が正元元年(1288年)庵室を建立、永禄元年(1558年)に大願寺、その後、東覚院薬師寺となったとのこと。立派な山門を入ると正面の本堂右手奥に閻魔堂(写真下右)があります。



こちらの閻魔堂も手前にガラス戸、中には格子戸があり、うまく撮影できません。中央の閻魔大王の脇は司録と司命とされます。



写真上左は閻魔大王の左側、写真上右は右側の従者たち。鬼がいるのを初めて見ました。右の鬼の後ろの女性は優しいお顔の奪衣婆。

[称光山 華徳院 長延寺]

杉並区松の木 3-22-11 最寄駅 丸の内線 新高円寺駅

五日市街道沿いにある閻魔王がご本尊の天台宗の古刹。下野国佐野で創建。天正年間に武蔵国霞が関に移転、慶長年間に蔵前（今の浅草橋）に再転。関東大震災後の区画整理でこの地に移ったとのこと。江戸時代は新宿太宗寺、巣鴨善養寺と共に江戸三閻魔と言われていたそうです。住職のご好意で本堂（写真下右）に上がり、閻魔大王と対面することが出来ました。



閻魔大王の隣の右の部屋には蔵前で焼失を免れた閻魔大王（写真下右）が安置。大きな舌抜きが怖さ倍増です。



【こぼれ話】 十王信仰

閻魔大王の脇にいる従者と思われる方々に興味を持ち、調べてみると十王のようです。十王とは道教や仏教で亡者の審判を行う 10 尊の裁判官の尊格。閻魔大王のみが裁判官ではないようです。人間をはじめとする、すべての衆生はよほどの善人や悪人でない限り、没後は中陰と呼ばれる存在となり、決められた日に十王の審判を受けるそうです。

（ ）内は十王名。

初七日（秦広王）、二七日（初江王）、三七日（宋帝王）、四七日（五官王）、五七日（閻魔王）、六七日（(変成王)、七七日（泰山王）、百日（平等王）、一周忌（都市王）、三回忌（五道転輪王）。

日本では平安末期の仏教由来の末法思想や冥界思想と共に広く浸透したとのこと。鎌倉時代には十王を仏様に置き換えた十王信仰が盛んとなりました。十王の中では閻魔王が中心的存在で、十王信仰が廃れても、その存在は世代から世代へ伝えられてきたとのこと。

置き換えた仏様：秦広王=不動明王、初江王=釈迦如来、宋帝王=文殊菩薩、
五官王=普賢菩薩、閻魔王=地藏菩薩、変成王=弥勒菩薩、泰山王=薬師如来、
平等王=観音菩薩、都市王=勢至菩薩、五道転輪王=阿弥陀如来

更に室町時代には3王を加えた十三王信仰が盛んになったとのこと。
七回忌（蓮華王=阿闍如来、十三回忌（祇園王=大日如来）、
三十三回忌（法界王=虚空蔵菩薩）

でも、生きているうちにいくらお参りしてお願いしても、裁かれるのは死後
七日毎の話なので各お裁きの日の前にそれぞれの仏様に誰かにお参りを頼ん
でおく必要があるのでは？と考える寅次郎でした。

次回のお江戸閻魔めぐり例会は4月9日の予定です。

今回は 江戸・東京の祭-53(新しい祭-11) です。

平野 寅次郎 拝